

開かれた学校の創造のための学校評価

札幌市立中央中学校

I はじめに

自己評価の客観性・
透明性を高める学校
関係者評価の取組

1 本校における学校評価のねらい

本校では、教育活動や学校運営についての成果を検証し、自律的・継続的な改善を図るとともに、保護者や地域住民に対して説明責任を果たし、教育活動やその他の学校運営に対して理解と参画を得ることで、支持され信頼される学校づくりを目指して学校評価を実施している。また、自己評価の結果や今後の改善策の妥当性を検証し、改善策の取組に対する助言を得ることで、自己評価の客観性・透明性を高めることをねらいとして学校関係者評価を実施している。より開かれた学校を目指し、常に進化し続ける創造的な教育活動の推進のため学校評価に取り組んでいる。

2 昨年度の学校評価の結果を基にした改善点

本校では、昨年度の学校関係者評価の結果から、以下のように改善を図った。

(1) 学校評価の改善点

- ① 自己評価項目を学校教育の重点、今日的課題に絞り、項目の精選化を図った。
- ② 今日的課題として、「札幌らしい特色ある学校教育」のテーマ3点(雪、環境、読書)について今年度から項目に加えた。
- ③ 学校関係者評価委員が学校を訪問する機会を増やし、積極的な情報提供の推進に努めた。

(2) 学校経営上の改善点

- ① 道徳教育の充実を図るため、道徳教育推進教師を中心に研究を進め、校内研修会等で実践の交流を行った。
- ② コンピュータ委員会を中心に、P C、プロジェクター等の機器の管理と整備を徹底し、使用しやすい環境づくりに取り組んだ。
- ③ 食に関する教育の充実を図るため、家庭科の指導内容と関連させ、身近な食材を使った取組を行った。

評価項目の精選化

II 本校の学校評価システム

自己評価システム

1 自己評価の充実を図る組織体制

本校では、教育課程検討委員会の活動の一つとして学校評価を位置づけており、学校評価年間計画の立案、結果分析、改善策の検討等を行っている。自己評価は、中間(7月)、学年末(12月)の年に2回実施し、P D C Aサイクルで計画的に実施している。対象者は、教職員、生徒、保護者、地域からで、地域の方々は中央中学校区健全育成推進会役員(地域町内会関係者、校下小学校、地域児童会館館長)、地域在住の本校P T AのO B、学校評議員に依頼している。

2 学校関係者評価の円滑な実施に向けた取組

学校関係者評価委員が学校行事や生徒の様々な活動を参観することは、評価をする上で大変重要なことである。本校では、昨年度以上に評価委員の訪問機会を増やし、積極的に働きかけを行っている。また、中間評価結果や後期に向けての改善点を報告し、年度途中に学校に関心を向ける機会を設けている。

年度末に行われる学校関係者評価委員会に向けて、事前に自己評価結果を送付し、可能な範囲で目を通していただくようにしている。また、評価委員から効果的な意見を引き出すことができ、円滑に会議を進めるため、学校が力を入れて取り組んでいる課題や重点的に取り組むべき改善点などについて、あらかじめ整理し、評価ポイントとして示している。

評価ポイントの提示

Ⅲ 学校評価の一年間の流れ

	自己評価				学校関係者評価	
	学校(教職員)	生徒	保護者	地域	学校関係者評価委員会	
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学校運営方針、年度重点目標「評価項目」等の理解を図る</div> 教育課程検討委員会(Plan I) 学校評価年間計画の作成 職員会議 学校評価年間計画及び改善策等の共通理解・確認 実践(Do I)	学校だより 学級指導 教科指導等	学校だより 学級懇談会 等	学校だより ホームページ	学校経営方針、重点目標、学校評価年間計画の報告 入学式参観 授業参観	
5		教育相談	学年説明会			
6					陸上競技会参観	
7	中間評価アンケート実施(Check I)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">中間評価(アンケート実施)</div>				
8	アンケート集計、分析					
9	教育課程検討委員会(Action I) (中間評価結果から改善策の検討) 職員会議 校務部会・学年会等(Plan II) (改善策の検討、実施計画) 実践(Do II)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">中間評価の分析結果報告と改善策の公表</div>			学校だより 学級指導 教科指導等	学校だより 学校だより 学校だより ホームページ 中間評価結果と改善策の報告 文化祭参観
10		教育相談	進路説明会		合唱祭参観	
11			学年懇談会		授業参観	
12	年度末評価アンケート実施(Check II)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学年末評価(アンケート実施)</div>			総合的な学習の時間「あい・タイム」 活動報告会参観	

1	アンケート集計、分析	教育相談			
2	教育課程検討委員会(Action II) (学年末評価結果から改善策の検討) 職員会議				
3	教育課程検討委員会 次年度の学校評価年間計画の作成 ・全領域評価項目の整理、自己評価項目の絞り込み 等	学年末評価の分析結果報告と改善策の公表			学校関係者評価委員会 自己評価及び改善策の検証、助言
		学校だより	学校だより	学校だより ホームページ	

IV 学校評価の方法

評価の視点の絞り込み

1 自己評価

(1) 項目の設定

本校の教育活動の成果を検証し、改善を図る上でより実践的・具体的な項目になるよう、教職員、生徒、保護者、地域それぞれに項目の設定を変え、評価の絞り込みを図っている。

(2) 効果的な外部アンケート等の実施

教職員については学校経営方針・重点及び今日的課題から評価項目を作成し、達成状況を4段階で評価している。

生徒及び保護者に対しては、「教育活動全般」に関する評価アンケートを実施している。本校の特色ある活動も含めて、所期のねらいが達成されているかどうか、生徒と保護者の側の意見を聴取することで、学校運営の改善に資することをねらいとしている。具体的な質問項目は、「教育活動全般」、「学習指導全般」、「生徒指導」、「道徳・特活」、「本校の特色」、「環境」についてである。また、生徒に対しては各教科ごとに「学習指導」に関する評価も行っている。学習内容の難易度、学習の進度、学習を進める方法や技術、評価・評定の在り方の4つの観点について評価アンケートを実施している。

地域の方への評価アンケートは自由記述を中心に、地域住民から具体的な意見や要望を聴取することで学校運営の改善に生かし、本校への理解と参画を得る機会とすることをねらいとしている。具体的な質問事項は本校生徒の印象(あいさつ、礼儀等)と中学校で指導すべきだと考えること(生活態度、道徳、しつけ等)の2項目としている。

(3) 結果の集計と分析・自己評価書の作成

生徒評価アンケートの集計は各教科担任が行い、結果を把握することで、教師自身の感じ方とのずれの有無を確認し、その原因を探ることで、学習指導の改善につなげている。他の評価アンケートについては、教育課程検討委員会で結果を分析し、改善策の検討を行い、職員会議で教職員全体の共通理解を図り、自己評価書を作成している。

(4) 改善策の検討

中間評価を1学期末に行い、教育課程検討委員会において評価結果から年度内にすぐ取り組むべき課題や改善が必要な項目を洗い出し、各分掌の担当者で改善策を検討し、2学期から実施している。その後、改善策が適当であったか、成果があったかなどを年度末に評価し、更なる改善点を加え、来年度の学校運営に生かしている。

中間評価の活用

2 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員の構成と役割

学校関係者評価委員会は、これまでも本校の教育活動に理解と協力をいただいていたPTA関係者を中心とした学校評議委員と本校教職員で組織している。自己評価が適切に行われているか、学校改善に向けての取組が妥当であるかを検証し、自己評価結果に現れた今後の学校教育活動の方向性に対して助言をいただくことで、来年度の学校運営に生かしている。

(2) 学校関係者評価を生かす取組

学校関係者評価結果を次年度の重点目標や学校運営等に反映させ、教職員全体で改善策に取り組んでいる。学校関係者評価委員会が本校が目指す方向性のブレを修正する役割を果たし、これから新たに取り組む課題についての意見をいただく場ともなっている。また、学校関係者評価報告を学校だよりやホームページ等で公表することで、保護者、地域住民と学校の現状や課題について理解を深めることができ、学校運営の改善への協力を促進することにもつながり、コミュニケーションツールの一つとして大いに活用することができた。

コミュニケーション
ツールとしての活用

V 評価結果の公表

改善策の公表

1 公表の方法

本校では、評価結果とその改善点について、それぞれの対象(受信者)に対して以下の表の手段、機会で公表を行っている。評価結果だけを公表するのではなく、結果に対する学校としての解釈、指摘された問題点や課題に対する改善策も示している。

公表の手段や機会	主な対象(受信者)
学校だより、PTAだより 等	生徒、保護者、地域(地域関係者、校区内小学校関係者)
学校ホームページ	生徒、保護者、地域住民、他
学年・学級PTA、PTA総会 等	保護者
PTAOB会(おんこの会)	PTAOB(地域住民)
同窓会	同窓生(地域住民)

2 公表の効果

保護者、地域住民の意識改革、学校に関心を向ける機会、学校教育への理解、教育への参加意識などの点において効果があった。

VI 成果と課題

自己評価及び学校関係者評価の結果から、次年度の課題について具体的な改善策を検討し、年度末に次年度の取組内容を明確にすることができた。そのことが教職員の意識改革につながり、学校経営方針に向けて教職員が共通理解のもと組織として取り組むことができた。また、学校関係者評価によって自己評価の内容や改善策の妥当性を検証することで、学校関係者の視点から多くの意見が聞け、より客観性の高い学校評価の取組ができた。さらに、学校関係者評価委員が学校運営にかかわることで、保護者、地域住民と学校をつなぐ役割を果たし、保護者や地域住民と学校の連携や学校運営の改善への協力を促進することができた。

今後の課題としては、学校関係者評価が形式的な評価にならないよう、会の運営方法や組織の見直しなどを行い、更なる充実を図っていきたい。また、集計作業の効率化、省力化に向けての方策も取り組んでいきたい。そして、平成21年度中にガイドラインが策定される予定の「第三者評価」についての取組も今後の課題である。

学校教育の重点

(自己評価及び学校関係評価書)

自己評価結果		学校関係者評価	
評価項目	達成状況	自己評価の適切さ	改善策の適切さ

学ぶ力の育成 「生きる力」をはぐくむ教育課程の具現化

○教育課程の適切な実施と評価・改善の推進 ・新学習指導要領の先行実施の推進 ・道徳の時間の指導資料の充実 ・生徒の実態に即した評価・評定の研究と改善 ・札幌らしい特色ある教育の実践(雪・環境・読書)			
○授業改善、指導力の向上に資する研究・研修の推進 ・生徒がわかる、できる、楽しいと実感できる授業の実践 ・自己研鑽、教師間の実践の交流と研修活動の推進			

豊かな心の育成 「心通う落ち着いた教育環境に具現化」

○温かさや厳しさ、相互理解と信頼に基づく生徒指導の実践 ・明るい挨拶、さわやかな挨拶の実践と育成 ・基本的な生活習慣や倫理観、規範意識、感謝・思いやりの心の育成 ・生徒が自己有用感を持ち、互いに認め合い高め合う集団の育成 ・特別に支援を要する生徒、不登校生徒への組織的な対応			
○学びの場としての教育環境の整備充実 ・安全で、美しい清潔な校舎・施設の維持管理、清掃活動の充実 ・自分の生活する環境をより良くしようとする心の育成			

健やかな身体の育成 「健康で安全な生活環境の具現化」

・各種体育行事を節目に一層の体力の向上・増進 ・食に関する教育計画の充実とその推進 ・運動部活動の一層の充実と推進			
---	--	--	--

信頼される学校の創造 「保護者・地域に信頼され、支持される学校の具現化」

○中央中の校風・伝統の継承と発展 ・先輩から後輩へ、思いやりのバトンパスを大切にした校風・伝統の継承と発展 ・現行の部活動の充実と支える体制の堅持			
○家庭、地域の力と連携する教育の推進 ・積極的な広報活動と、学校ホームページの充実 ・地域、関係機関との連携・相互交流の促進 ・学校評価の推進と改善			

札幌らしい特色ある学校教育

○雪 ・生徒会ボランティア委員会による積雪期の通学路の滑り止めの砂蒔の活動の充実			
○環境・総合的な学習の時間を中心に省エネ、「チョボラの会」との連携したプルタブ回収などリサイクルの身近な活動を通して、自ら環境に働きかける態度の育成 ・エコライフレポートの取組 ・環境局主催の出前講座の利用			
○読書・「朝の読書」の取組を通して、「本に親しむ」姿勢を身につけさせるとともに、思索の原点であり、広い視野と社会性の育成			

学校関係者評価者による意見)

学校教育の今日的課題

(自己評価及び学校関係評価書)

自 己 評 価 結 果		学校関係者評価	
評 価 項 目	達成 状況	自己評価 の適切さ	改善策の 適切さ

人間尊重の教育

<ul style="list-style-type: none"> ・校訓「吾あり 人あり 学びあり」の精神の徹底による全校生徒および全職員による「信頼と敬愛に満ちた学校生活」の具現 ・道徳の授業を中心に、性に関する教育の推進の一環として、中央保健所の保健師を招き、学年道徳集会の実施による性に関する正しい態度の形成 ・文科省「人権教育総合推進地域事業」の成果を生じた一人一人を大切にす態度の育成 			
--	--	--	--

特別支援教育

<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの支援委員会」を中心として、不登校生徒のストレス・悩みを和らげ、正常な学校生活に戻る方策の展開、さらに、特別な支援を必要とする生徒への全職員での支援 ・スクールカウンセラーや特別支援教育コーディネーターと連携をとりながら、幅広い生徒理解と組織的な対応のシステムづくり 			
--	--	--	--

環境教育

<ul style="list-style-type: none"> ・市教委「学校研究委託モデル校（環境教育）」の成果を活かし、総合的な学習の時間を中心に省エネ、「チョボラの会」との連携したプラタブ回収などリサイクルの身近な活動を通して、自ら環境に働きかける態度の育成 ・エコライフレポートの取組、環境局出前講座の利用 			
--	--	--	--

国際理解教育

<ul style="list-style-type: none"> ・異文化に対する関心や理解を深め、尊重する態度の育成に努め、教科や総合、道徳などを中心とした工夫と外部講師による啓発 ・A L Tの活用を図り、より多くの理解と交流の場の設定と工夫 			
---	--	--	--

情報教育

<ul style="list-style-type: none"> ・授業や行事のなかでの視聴覚機器の活用 ・機器の管理と整備の徹底による、できるだけ使用しやすい環境づくり ・質の高い情報の提供に努めるとともに、情報リテラシーの育成 ・情報モラルの育成 			
---	--	--	--

福祉・健康教育

<ul style="list-style-type: none"> ・人も物も大切にする態度の形成 ・総合的な学習の時間における、福祉施設の訪問活動やユニセフ等の各種募金活動の体験を通しての心情の形成 ・豊平川河川敷清掃など地域のボランティア活動への積極的参加 ・生徒会ボランティア委員会による花壇整備活動の充実 ・全国体力・運動能力、運動習慣調査の実施 			
---	--	--	--

学校関係者評価者による意見